

誘蛾灯の記録に対する対数級数則のあてはめ

長澤純夫<sup>2)</sup>・伊藤博・山下いくえ

高松市仏生山町の香川県農業試験場の構内に設置された水稻害虫発生予察のための誘蛾灯によって、1972年から76年にいたる5年間に誘殺された、夜光性の蛾類の種数と、個体数の関係を半旬別に細分集計し、これにFISHERの対数級数則(L則)のあてはめをこころみた。集計しえたサンプル165の内、危険率0.05において、L則によって近似できなかったものは、僅かに19例、12%で、L則が小サンプルにおいて高い適合性のえられることがたしかめられた。個体数また種数の増減と、これにともなう多様度指数の変化は、雑多な自然環境要因、また人為的な変異要因に左右され、個体数と多様度指数との間には、それほど高い相関は見出されなかった。1967年から76年にいたる10年間の記録を、種数と属数の関係に年度別に整理し、これにL則をあてはめた結果は、73年と74年の記録の他は危険率0.05において適合性がえられた。